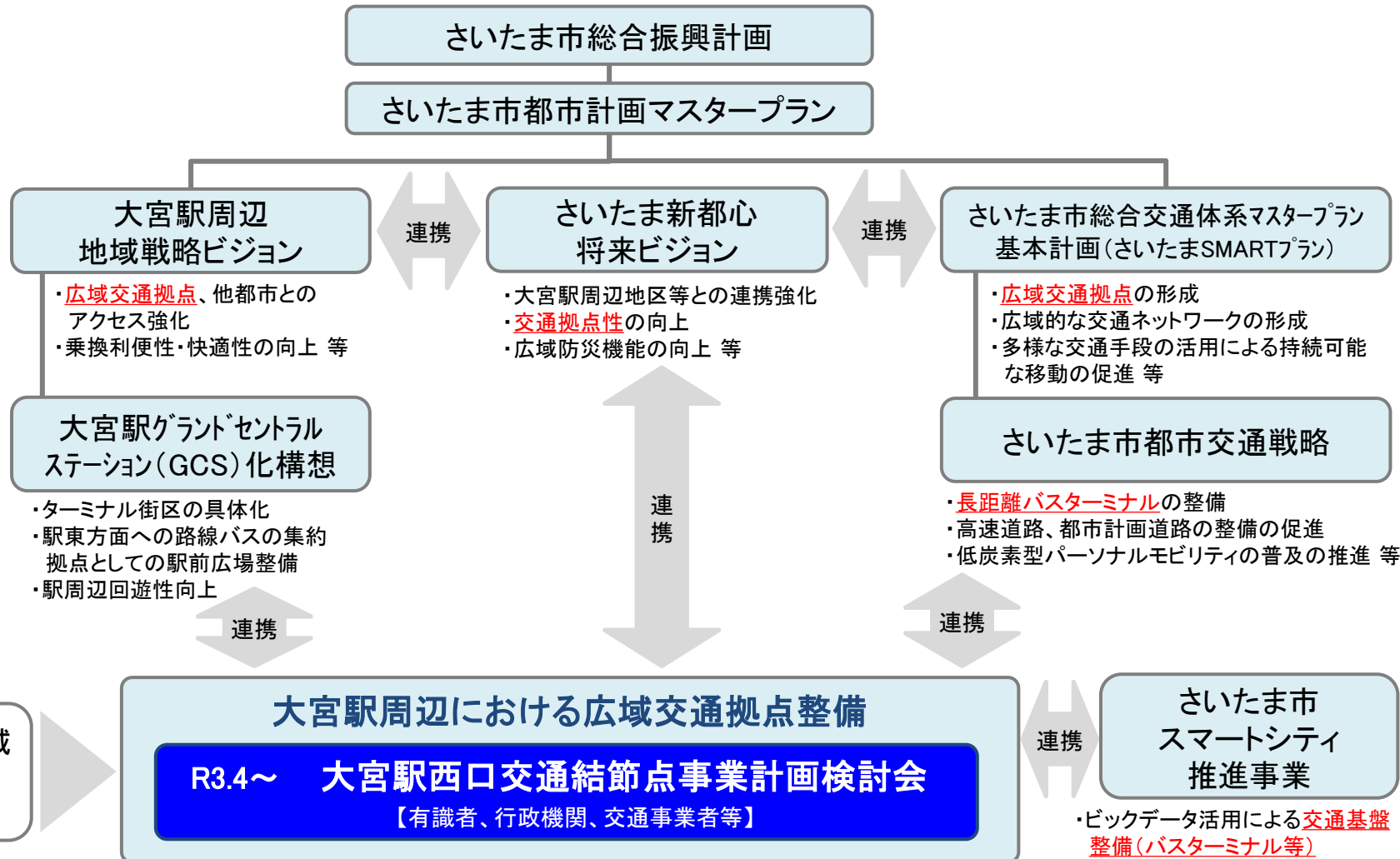


事業計画検討会の設置

1. 事業計画検討会と各種計画との関係
2. 各種計画における交通拠点の位置づけ
3. 大宮駅グランドセントラルステーション化構想(GCS)との関係

1. 事業計画検討会と各種計画との関係

- 大宮駅周辺での交通課題への対応については、市の各種計画で方針が示されており、特に広域的な交通拠点の整備が重要とされている
- 広域交通拠点の整備に向けた方針及び事業計画の策定を目的として産学官連携による検討会を設置



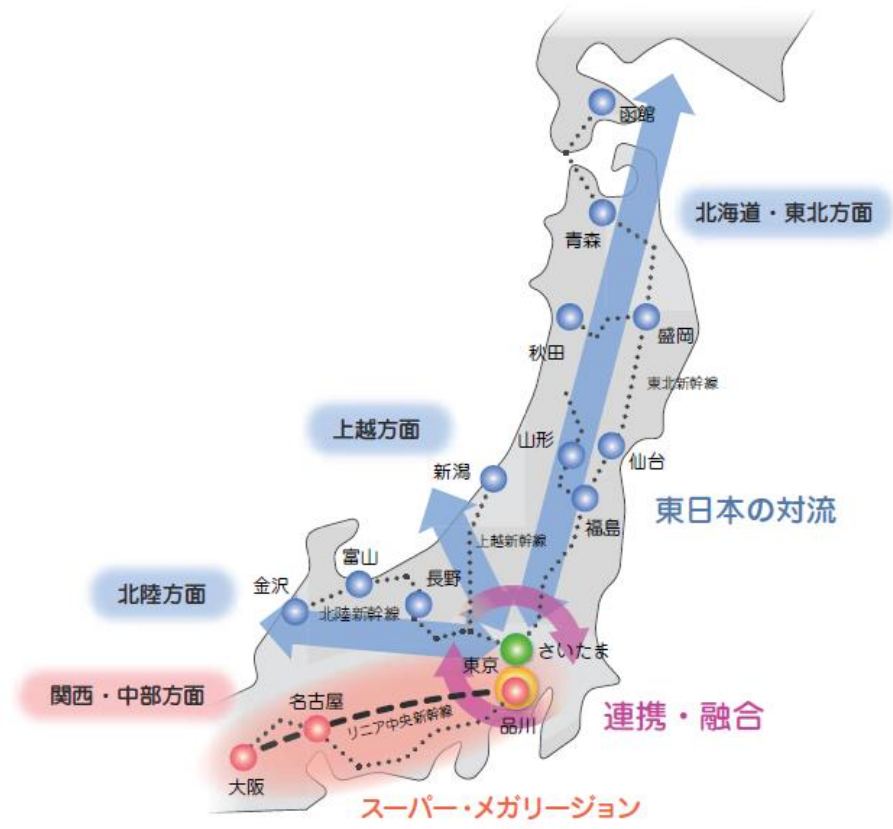
2. 各種計画における交通拠点の位置づけ

1)さいたま市総合振興計画

▶ 国際社会との交流のための結節点となる東日本の対流拠点としての役割を果たし、“ヒト・モノ・情報が集まり、新たな価値を生み出す都心地区”の形成を目指す

- 『将来都市構造を構成する要素』
- 大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区を本市の2つの「都心」と位置付ける。
 - 本市の顔として、良好な住環境に配慮しつつ、幹線道路網や公共交通機関の利便性を生かしながら、商業・業務機能等の高次な都市機能を集積し、広域的な都市活動や市民生活の拠点としての役割を担う。
 - 2つの都心を包含する区域を「中心市街地」と位置付け、「中心市街地」は、都心間の連携の強化、広域的な都市機能と都市型住宅を誘導するとともに、新たな産業の振興、多様な人々の交流の活性化を図る拠点としての役割を担う。
 - 大宮駅周辺地区は、広域的な商業・業務機能や交流機能、さいたま新都心周辺地区では広域行政機能、業務機能、文化機能、交流機能等の機能集積を進め、両地区の連携を深めつつ一体的な都心としての形成を進める。
 - 東日本、ひいては国際社会との交流のための結節点となる東日本の対流拠点としての役割を果たし、“ヒト・モノ・情報が集まり、新たな価値を生み出す都心地区”の形成を目指す。

■広域的に見たさいたま市の役割イメージ



▶大宮駅西口



▶さいたま新都心駅周辺

出典：さいたま市総合振興計画(令和3年度～令和12年度)
「首都圏広域地方計画 プロジェクト参考資料」(平成28(2016)年、国土交通省)などをもとに本市で作成

2. 各種計画における交通拠点の位置づけ

3) 大宮駅周辺地域戦略ビジョン

▶ 『交通基盤戦略・おもてなし交通戦略』といったコンセプトのもと、公共交通の利便性向上やさいたま新都心駅との連携強化の必要性が示されている。

『交通基盤戦略』

- **広域的な拠点性を持つ街にふさわしい交通体系**を形成することで、首都圏や東日本だけではなく、**国内や海外とのつながりを強化**するための空港や港湾へのアクセス向上を図る。
- **さいたま新都心との連携強化を図る**とともに、駅東西の連絡の利便性を向上させることで、様々な人やモノが行き交う都心をつくる。

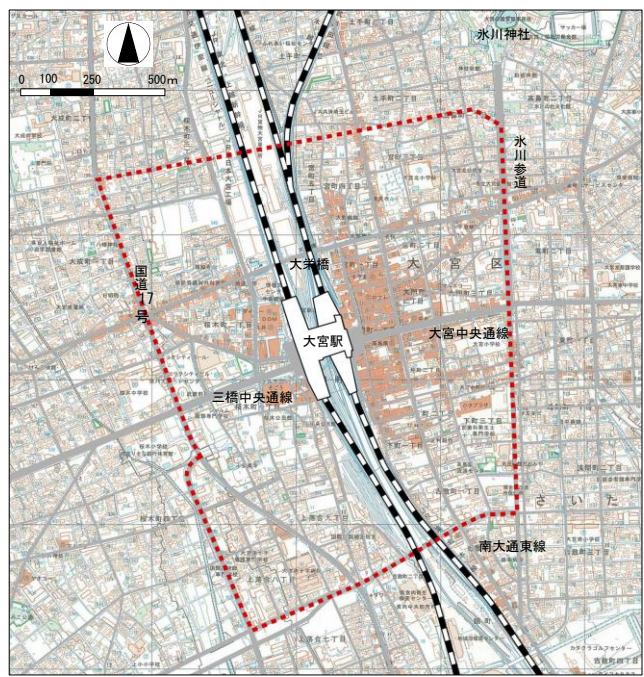
『おもてなし交通戦略』

○ 道路や駅前広場、駐輪・駐車場等の交通施設について、情報技術の活用なども含めて対策を講じ、歩行者や自転車、自動車が調和した交通環境を創出することで、すべての人が安全に楽しくぶらぶら歩きを楽しめる人優先の歩行空間を確保し、まちのにぎわい創出の核となる回遊性の向上を図る。

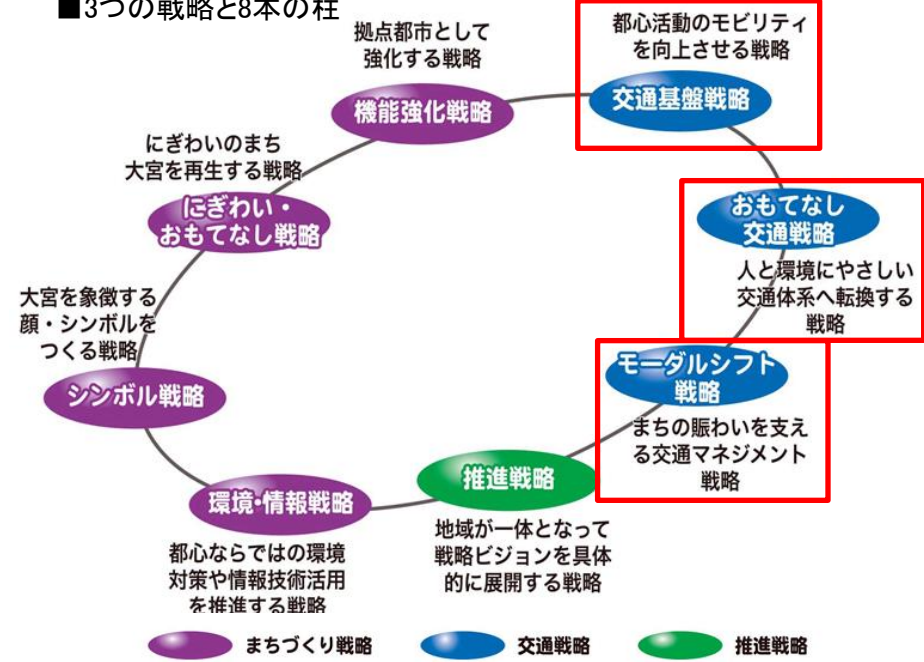
『モーダルシフト戦略』

○ 公共交通機関の利便性や快適性の向上、自転車利用環境の整備、新交通システムの導入など、環境負荷の低い交通手段を積極的に取り入れることで、地球にやさしく、高齢者や外国人を含む多様な人が便利に快適に行き交うことができるまちをつくる

■ビジョン対象範囲



■3つの戦略と8本の柱



出典：大宮駅周辺地域戦略ビジョン2010(H22.5さいたま市)

2. 各種計画における交通拠点の位置づけ

4)さいたま市スマートシティ推進事業

▶ さいたま市では、スマートシティ推進事業として、バスターミナル等の交通基盤整備やシェア型のマルチモビリティの充実が示されている。

○ビッグデータ活用による交通基盤整備(GCS、バスターミナル等)や、シェア型マルチモビリティの充実等をICTやビッグデータを活用して実現するスマートインフラにより更なる交通結節機能の向上を図り、交通結節点とまちが一体となった「スマート・ターミナル・シティ」を目指している。

対象区域

- 名称：大宮駅・さいたま新都心周辺地区
- 面積：12.8km²(大宮区)
- 人口：117,468人(大宮区、2020年4月推計)

対象区域のビジョン

- 大宮駅GCS化構想
- さいたま新都心将来ビジョン

目標

- 交通の利便性が高いまちと感じる人が増えるよう交通結節点の利便性を向上
- シェアモビリティ利用回数の増加により、エリアの回遊性向上や市民の健康促進
- 移動サービスの選択肢の増加による大宮～新都心間の連携強化



3. 大宮駅グランドセントラルステーション化構想(GCS)との関係

1) 大宮駅GCS化構想

▶ 大宮駅周辺地域戦略ビジョンにある「ターミナル街区」を中心としたまちづくり、交通基盤整備及び駅機能の高度化を三位一体で進め首都圏、さらには東日本全体の発展に寄与することを目的に策定

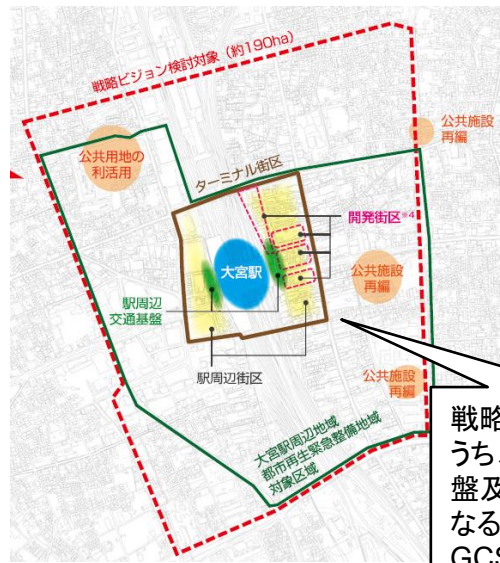
GCS構想(大宮の果たすべき役割)

- 「東日本の玄関口」として東日本全体の発展を牽引する役割
- 東京一極集中に伴う日本経済の災害リスク軽減とともに、安心・安全な市民生活を持続させる役割
- 多彩な地域資源や空間の良さを活かしながら、これからの働き方やライフスタイルを先導・提案し、市域全体に波及させる役割

■ まちの将来像 (大宮GCSプラン2020より)



■ GCS化構想対象範囲



戦略ビジョン対象範囲のうち、駅、駅周辺交通基盤及び駅周辺街区からなる「ターミナル街区」がGCS化構想の対象範囲

出典：大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)

出典：大宮駅グランドセントラルステーション化構想(2018.7 さいたま市)

3. 大宮駅グランドセントラルステーション化構想(GCS)との関係

2) GCSにおける交通広場整備との区分け

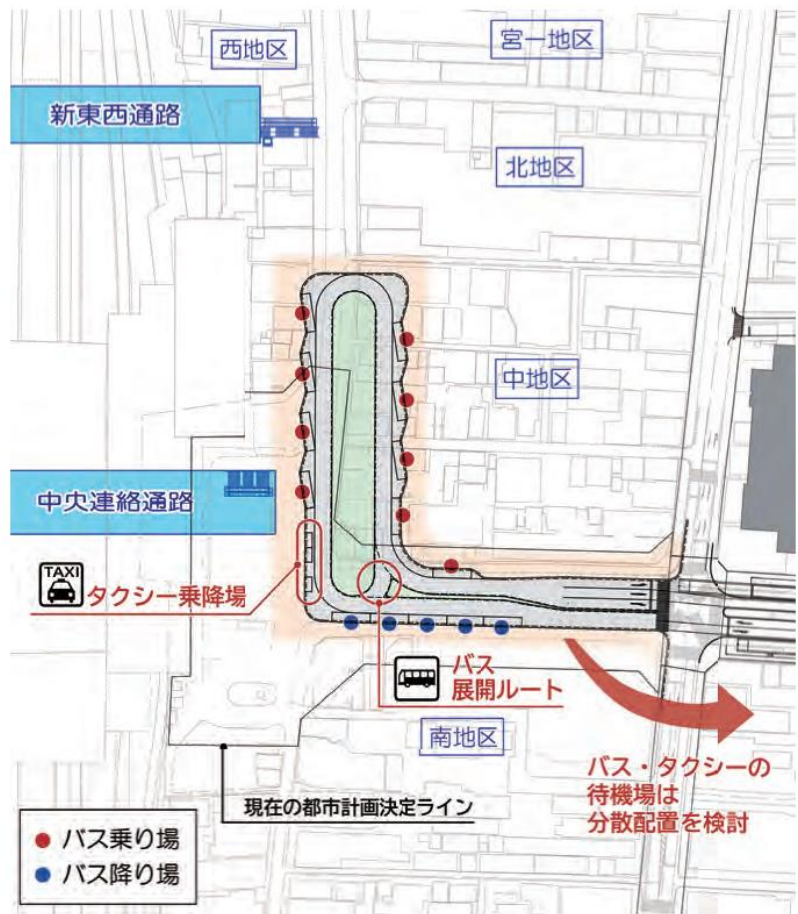
- 大宮GCS化構想では、駅東口に路線バス、タクシー及び一般車乗降用の交通広場を整備することとされている。
- 本検討会においては、主に、駅西口での高速バスを主体とした交通広場整備について検討を実施

■交通広場整備位置図（大宮GCSプラン2020より）



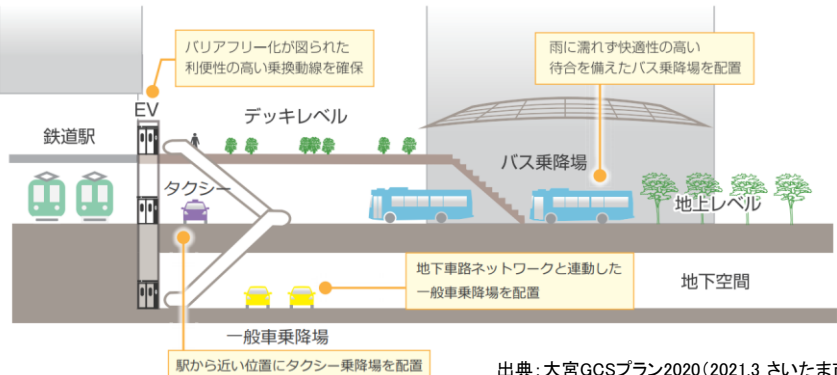
出典：大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)

■交通広場の整備イメージ（大宮GCSプラン2020より）



- バス乗り場
 - バス降り場
- 路線バス：乗車9バス、降車5バス
 タクシー：乗車2バス、降車1バス、プール36台分
 一般車：乗降16バス

■交通広場の考え方（大宮GCSプラン2020より）



出典：大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)

出典：大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)

3. 大宮駅グランドセントラルステーション化構想(GCS)との関係

3) GCS化構想及びGCSプラン2020との連携・協調

➤ 駅西口での高速バスを主体とした交通広場整備や交通結節機能の強化の検討に際しては、**駅東口・西口の一体的なまちづくりによる相乗効果の発現**を目指し、GCSプラン2020で示されている都市空間形成の目標や整備の指針等を踏まえるものとする。

■ GCSプランにおける都市空間形成の目標と整備の指針

都市空間形成の目標	整備の指針 (24項目)
1 (回遊性) まちとえきをつなぐ 回遊空間をつくる まちとえきをゆるやかにつなげる パブリックスペースの創出	① まちとえきをつなぐための空間* (仮称) アーバン・パレットの創造 ② 街路と沿道を一体的な空間として活用する* (仮称) ストリート・テラスの創出 ③ 鉄道乗換の混雑を解消し、歩行者ネットワークを強化する駅の改良 ④ 界隈性のある路面商業空間の発展的な継承 ⑤ 誰にとっても利用しやすい回遊空間のユニバーサルデザイン化
2 (交通) ひとにやさしい 立体的交通空間をつくる ストレスフリーな歩行者環境と 円滑で利便な移動環境の形成	① 空間を立体的に活用し、コンパクトで円滑に乗換ができる交通広場の整備 ② 開発事業を支える道路ネットワークの強化 ③ 駅周辺の自動車交通や道路整備の進捗状況に応じた交通需要マネジメントの展開 ④ 誰にでもわかりやすく利用しやすいサイン・案内システムの導入 ⑤ 様々なニーズに応える多様な交通モードとの連携
3 (都市機能) 新たな価値を 発信する先進的な まちをつくる 東日本との連携を見えた 大宮ならではの都市機能の導入	① 東日本をひとつの圏域と捉えた経済活動の拠点づくり ② 「商都大宮」としての大宮のこだわりによる商業環境の形成 ③ 人口動態と働き方の変化に合わせたライフスタイルの提供 ④ スマートシティ化による業務・商業需要の創造
4 (防災・環境) 安心・安全の 要となる まちをつくる 先進技術の導入による災害に強く 地球にやさしいまちの実現	① 相互連携を活かした大宮セーフティバックアップシティとしての防災機能の確保 ② “街区連携型”の脱炭素まちづくりの誘導 ③ 環境緑化や環境活動の推進
5 (景観) 市民が誇らしく思い、 来訪者が感動する 景観をつくる 地域資源を活かした ここにしかない景色の創造	① 大宮のまちを感じることができる景観の形成 ② シンボル性の高い都市軸街路空間の誘導 ③ 五感に訴求する豊かな街路景観の形成 ④ 時の経過とともに趣が感じられるアーバンデザイン
6 (エリアマネジメント) まちの質や魅力が 持続する しゅきみをつくる *大宮に関わるみんなで 取り組む持続可能なまちづくり	① 公共空間及び民地内公開空地の一体的なエリアマネジメント ② ターミナル街区全体でのデザインマネジメントとマーケティング ③ まちの創造性を持続させる組織・体制の構築



大宮駅周辺地域戦略ビジョン(機能導入・強化エリアのイメージ)引用

出典: 大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)